

第4回横須賀市FM戦略プラン検討委員会 議事概要

■日時：平成31年1月29日（火）10：00～12：00

■場所：市役所3号館3階302会議室

■出席者：鈴木伸治委員（委員長）、倉斗綾子委員（委員長職務代理者）、安部俊一委員、岡田祐之委員、岡本久美子委員、田中清美委員、西尾真治委員、橋本強委員、石渡財政部長、藤田FM推進課長、山中主査、伊藤主任、薄井
（オブザーバー：有限責任監査法人トーマツ宗和氏、大嶋氏）

■内容：＜議題＞

- ・横須賀市FM戦略プランに対する答申について
- ・横須賀市FM戦略プランの副題（サブタイトル）について

概 要

1 開 会

2 議 題

- （1）横須賀市FM戦略プランに対する答申について
- （2）横須賀市FM戦略プランの副題（サブタイトル）について

（委員長）

資料について事務局からの説明を求める。

（1）横須賀市FM戦略プランに対する答申について

＜横須賀市FM戦略プラン（答申案）【平成31年（2019年）1月29日版】＞資料1-1 別冊

＜「12月19日版骨子案」から「1月29日版答申案」への主な修正点＞資料2

（事務局）

事務局が内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

- 資料2は、12月19日付で各委員にお送りした骨子案から、資料1-1別冊の計画書答申案への主な修正点をまとめた一覧となる。これ以降は、資料1-1別冊を用いて、説明を行う。

① 第1章「計画策定の目的」について

- 1 「（1）計画策定の背景」について、一部追記をしたほか、「（2）まちづくりの考え方との整合」では、他の計画との表現の整合性などを主に修正した。
- 「2 FM戦略プランにおける施設検討の視点」では、文章をより分かりやすい表現に改め、図の形式を修正した。
- 3 「（1）計画の期間」では、下の図1-2の表の中に記載のとおり、現在、本市では

総合計画の計画期間等について見直しを進めており、市の総合計画の計画期間等が未定の現段階では、当プランの見直しスケジュールが具体的に記載できないため、今後、決定した段階で追記する。

- 3 「(3) 対象施設」は、平成 29 年度末現在のデータに内容を修正した結果、対象施設は 341 施設となり、そのうち市民が日常的に利用する施設は 308 施設となった。なお、当プランの対象施設、つまり縮減目標の対象は 341 施設だが、施設の機能分析を行って将来像を示すものは、このうち市民利用施設と考えている。このため、第 2 章の現状分析に関する部分や第 3 章の将来像に関する部分については、市民利用がない施設は除外している。

② 第 2 章「公共施設の現状」について

- 本章の主な修正点としては、他の章と表現の整合性を図り、数値類を平成 29 年度末に更新を行った。

③ 第 3 章「公共施設の将来像」について

- 「3 カテゴリー別に見た将来像」において、これまでは、公共施設検討の視点について視点ごとに星取表を併記していたが、言葉での説明があったほうがより分かりやすいとの考えから、新たに、将来像実現のイメージをその横に文章で追記した。

④ 第 4 章「公共施設の更新・再編の手法」について

- ここでは主に、55 頁以降の再編手法の具体的なイメージとして記載した図の修正を行うとともに、本市の事例について内容を一部変更した。

⑤ 第 5 章「FM戦略プラン推進の基本的な考え方」について

- ここでは、基本方針 4 の市民協働について、少し弱いトーンで方針の名称が記載されていたため、他の方針と表現の整合性を図った。また、この他、64 頁から 66 頁に記載している各方針のイメージについて、一部修正を行った。

⑥ 第 6 章「公共施設の維持・更新費用の縮減及び収入の創出」について

- ここでは、図表の修正やアップデートを行ったほか、76 頁から 78 頁にかけて記載している「4 縮減目標等」において、目標値算出にあたり、計算式等の詳細を資料編に記載する前提で、その考え方について文章による説明を記載することとした。
- また、縮減目標値について、施設数を平成 29 年度末現在にアップデートして計算し直した結果、これまでの 177 億円から 175 億円となった。

⑦ 第 7 章「計画期間中に実施する具体的な取組み」について

- ここでは、80 頁から 83 頁にかけて記載している各取組みの表現を分かりやすいものとするために文言修正を行ったほか、標題のみしか記載していなかった一部の取組みについて、具体的な取組み内容を追記した。

⑧ 第8章「FM戦略プランの推進手順・進捗管理」について

- ここでは、90頁のPDCAの図の「Check」の欄に、外部有識者の評価・助言を追記した。

<横須賀市FM戦略プラン・資料編（案）>資料2

- この資料は、当初、計画書本編の後ろに綴るイメージでいたが、各施設の状況を記載した施設カルテのボリュームが膨大になるため、別冊資料とすることが望ましいと考え、計画本編と切り離れた。
- なお、この資料編については、まだ確定していない事項が複数あることや、施設カルテ部分も、今年度に導入したシステムが稼働準備中であることなどから、記載内容が十分でないため、現時点での記載イメージをお示しした。

① 「1 計画策定の経過」について

- ここでは、これまで、プランの検討に関わってきた、検討委員会、市議会特別委員会、庁内戦略会議、戦略会議の検討部会について、12頁にかけて記載している。

② 「2 計画策定に関する市民参加」について

- ここには、今後実施予定の、計画に対するパブリックコメント手続きの実施結果を記載する予定である。

③ 「3 FM戦略プランの補足説明」について

- ここには、本編76頁の第6章「4 縮減目標等」に記載している縮減目標の算定根拠を詳しく記載する予定である。

④ 「4 施設カルテ」について

- ここには、施設ごとに、所在地、所管、運営方法、面積、建築時期、維持管理費、利用状況等の情報を記載するものだが、この施設カルテは、先ほどふれた、今年度に導入したシステムを活用して作成するため、今後、全施設の入力作業を進めた上で、作成する予定としている。

【審議】

(委員長)

まず、計画書の検討から始めるが、全体的な頁数も多いため、第1～3章を1グループ、第4～7章を2グループ、第8章と資料編を3グループとして区切って検討を進めたい。始めに第1章から第3章においてご意見等があればご発言いただきたい。

第1～3章

(委員)

- 3頁「2 FM戦略プランにおける公共施設検討の視点」の文中にある、公共施設の面から分類する3つの考え方のうち、「暮らしの不安解消」とあるが、この計画には不安を解消するだけでなく、将来も安心して暮らせるまちにしていくという視点があることから、そのような視点からの文言に修正できないか。

(委員長)

- この指摘は、伝えたい内容が同じであるにも関わらず、「暮らしの不安解消」という表現と「将来も安心して暮らせるまち」という表現が混在しているためだと思う。そこで、「将来も安心して暮らせるまち」という表現に統一したいと思うが、いかがか。

(委員)

- 良いと思う。

(委員長)

- それでは、その表現に改めることとする。

(委員)

- サブタイトルを考えるにあたり、再興プランの位置付けが、市の最上位計画に近い位置付けだと思うが、正式な最上位の計画は総合計画だと思う。横須賀市がどのようなまちづくりを目指すのかを端的に表すには、最上位の総合計画で掲げている都市像が統合されたイメージとして最上位にくるものと思うので、それが記載されていた方がサブタイトルを考えるにあたっても、有効となってくると思うがいかがか。

(事務局)

- 本市においては、実施計画である再興プランの上位計画として基本計画があり、その上に基本構想がある。基本構想および基本計画は、策定から月日が経っており、現状と合っていない部分もある中で見直しを図っていこうという状況において、本市の直近の姿勢を表しているのが、実施計画である再興プランであるため、現状に合った計画を基に作成を行った。そのため、上位計画である基本構想および基本計画を用いるのは難しいと考えている。

第4～7章

(委員長)

- 続いて、第4～7章について検討していきたい。ご意見のある方はいらっしゃるか。

(委員)

- 第4章の再編の手法の部分で、現在記載している手法以外として、新しい機能の創生を現在ある施設で実施できるようなイメージを盛り込むことは出来ないか。具体的なイメージとしては、例えば今ある施設を活用して、新しい機能を創生したものをその施設に当てはめるといような、現在記載している手法じゃない手法で、新しいものを作り出すといような項目を盛り込めないか。現在の記載は、施設をコンパクトにするといような視点のみしか読み取れないように見えるので。

(事務局)

- 例えば、56頁の複合化の説明の中で、複合化の実施により使われなくなった施設については、他の用途に転換することも考える旨を記載している。新たなニーズに対応するとい点については、以前の検討委員会の中でも議論があったと思うが、やっていかなければならないことは認識している。更新・再編の手法と言った際に、そのような新たな手法がどこに入るのか考えた場合、既存の手法だと複合化や維持する中で、なるべく様々な使い方をするといことを第6章では触れているが、確かに第4章の中では触れていないのが現状である。

(委員)

- 第3章のカテゴリーの中で、例えば居場所機能など、既に新しい機能が盛り込まれていると思うので、そのような機能をどこに配置するのかを考えると、第4章の中でイメージを書いた方が良いと思うがいかがか。

(事務局)

- 56頁の図で学校施設を活用した複合化の例を挙げているが、そこでは、現状にない機能を再編後には新たに複数の施設を融合させた機能の創生という意味を踏まえて、記載している。ただし、その下の説明文では、表現が不足しているように感じるので、新しい機能の創生がイメージできるような表現を考えたい。

(委員長)

- 先程の意見は、具体的な施設のイメージについてというよりも、もっと広範な、例えばICTの技術進歩により、公共施設が使いやすくなる、予約が簡単になり、施設の稼働率が上がるなど、公共施設のあり方そのものを変えていくといような視点までをイメージしているものなのか。

(委員)

- そのような視点もあるかと思うが、施設のあり方を考えていくと、新しい機能が必要になってくると思う。そうなった際に、この再編のイメージの中に、そのような例が盛り込まれていないと、ニュアンス的に疑義が生じる可能性があると思う。現状の例は、コンパクトにするイメージが強いと思うので、新しい機能の創生という視点が盛り込めれば、未来を見据えた書き方にもなると思う。

(委員)

- 第4章の記載事項について、以前は機能面ではなく建物面からみた書き方になっていたと記憶している。そこで、53頁に機能から、54頁に建物から見た視点を記載することになったと思うが、この機能と建物が1対1で結び付いているからおかしく見えてしまうと思う。公共施設マネジメントというのは、機能と建物を分離して、建物は出来るだけコンパクトにしていくが、機能はより良い機能や新しい機能を検討していくということが、基本的な考え方になると思う。そのため、53頁と54頁が一体となっているのが、おかしいのではないかと感じる。この資料を改めて見直してみると、機能の話と施設の話が混在している印象がある。私見ではあるが、ここでは機能の話を持ち離して、建物の話に特化した方がよいのではないかと思う。建物の手法として、集約・複合化・維持・廃止があり、それを踏まえて機能についてはより柔軟に取り組んでいくべきという考え方がよいと思う。
- 第4章「⑤公民連携の活用」が①～④と並列していることに違和感がある。①～④を進めるための手法が⑤であると考えられるので、⑤は別項目にした方がすっきりすると思う。

(委員)

- 53頁の表で言うと、「⑤公民連携の活用」は①～④との並列（横軸）ではなくて、①～④全体にかかるような表記（縦軸）にするのがよいと思う。

(事務局)

- 53頁の表記方法はご提案いただいた形で修正したい。
- また、機能の手法と建物の取扱いを併記するのではなく、建物の再編手法として考えた方が分かりやすいと感じたので、文章表現等も含めて再度検討したい。

(委員)

- 例えば56頁の図の説明で、大きい施設があって、そこに学校施設が記載されていて、その隣に青少年の家や老センという表記があり、ここでは機能の面から図が出来ているので、サービスが集約されるように見えてしまう。そこで、表記を大規模施設や中規模施設などとして、カッコ内の表記を具体的な施設の例などにする切り離して考えられるようになるかなと思う。

(委員長)

- 今までいただいた意見を集約すると、まず一つ目として、公民連携の活用に関する表記は、並列ではなく、別項目として記載すること。二つ目として、新たな機能の創生や施設そのもののあり方を見直す記載を別途設けること。それから三つ目として、特定の施設を指した図の表記を見直すこと。この3点について見直しを図るということによろしいか。

(事務局)

- 第4章を建物について特化した表記にするという点を中心に、いただいた意見等を踏まえて修正を進めていきたい。

(委員)

- 第5章基本方針2の部分において、全く何もない段階から新しいものを作るというよりは、従来の枠組みに捉われずに、本質的に何が必要かということ考えた時に、 $A+B=A+B$ ではなく、 $A+B=C$ という新しいものになるというのが、考え方だと思うので、「従来の枠組みに捉われず」というフレーズが、この中に含まれていると、本当に必要なものと考えていると読めると思うが、いかがか。

(事務局)

- 市の方向性として、増やそうと考えている施設もある。今ある施設の一部を増やそうと考えている施設に転換する、または、新たに作っていく可能性は高いと考えているので、「従来の枠組みに捉われず」という文言や「時代のニーズに合わせた新たな機能」という文言を64頁基本方針2の中に盛り込んだ方が、将来の現実に合いやすいと思ったので、その方向で修正を考えたい。

(委員)

- ニーズそのものも多様化しており、また、そのニーズの把握方法についても、進歩している状況の中で、再編の手法や再編の対象となる施設を絞り込んでも、数年後には変わっている可能性もある。例えば、ICTを活用したスマートシティに移行していくために、今は調査データを人力で行っている方法から、ビッグデータを活用した方法に代わっていくと思う。そのようになると、この委員会で話し合ってきたプランも、三年後、五年後の短い期間に再度練り直しを行う必要が生じる可能性もある。そのため、現時点でかっちり考えるのではなく、今後柔軟に運用できるようなプランであった方が良く思う。

(委員)

- 60頁の公民連携の活用は、第5章にも関係してくる部分なのか。

(事務局)

- 公民連携の活用に関しては、基本方針3に関連すると考えている。

(委員)

- 公民連携に関して、第4章⑤の部分と第5章基本方針3と繋がっているのであれば、基本方針3の方に公民連携という文言が出てこないで、文言を統一しておいた方が良いと思う。
- また、PPP/PFIの用語解説が65頁にあるが、初出が60頁であることから、用語解説は60頁に移した方が良い。
- 基本方針3の部分で、イメージがPFIの手法についての図となっているが、PFIはPPPの一つの手法であることから、PPPのイメージ図を掲載した方が良いと思う。

(事務局)

- いただいたご意見を基に、修正していきたい。

(委員)

- 66頁の基本方針4について、より積極的に市民の方が参画するようなイメージを出せるような文言を追加した方が良いと思う。例えば、「ワークショップを行う」という文言など、どのように市民の意見を取り入れていくかという点について、今までと違う面を出していけたらもっと良いと思う。ワークショップのイメージ図とか写真とかがあれば良いのかなと思う。

(委員長)

- 市民協働の具体的なイメージは88頁にも図があるので、その部分との整合性が取れば良いのではないかと思う。

(事務局)

- ワークショップのイメージ図が入れられるように、修正を考えたい。

第8章・資料編

(委員長)

- 続いて、第8章・資料編について、ご意見のある方はいらっしゃるか。

(委員)

- 90 頁の進捗管理の部分の文言について、下から2行目「外部有識者等」の部分「外部有識者・市民等」に修正できないか。

(事務局)

- そのように修正したい。

(委員)

- 資料編の「4 施設カルテ」に関する貸室について、予約手続きや料金を記載する項目を追記することはできないか。

(事務局)

- 施設カルテについては、今年度導入したシステムから抽出できる建物の基礎情報や利用者数のデータ、維持管理費のデータを基に作成する予定である。ご意見いただいた予約手続きや料金については、現在ホームページでも公開している情報ではあるが、その内容が分かりづらいための意見かと思う。対応としては、施設カルテにおいてではなく、今後の利用料金の見直しに合わせて対応していきたいと思う。

(委員長)

- そもそも、導入したシステム上に利用料金等を記載する項目はないのか。

(事務局)

- 各部屋の利用料金がいくらかということに記載する項目までは備えていない。

(委員)

- 今後のことを考えた場合、計画の進捗管理をしっかりと行えることが重要であり、目標は設定しているが、実績を把握できていない自治体も多くあるのが現状である。今回、更新費用の目標値を掲げているので、当初の目標に対して実績がどうだったのかを確認できる仕組みを整える必要があると思う。可能であれば、進行管理について資料編に掲載できるのが理想かと思う。資料編に間に合わない場合でも、計画策定までには検討しておいた方が良く思う。

(事務局)

- いただいた意見については、外部の意見を取り入れた方が良くという点にも繋がっている。今後、外部の方に見ていただく際には、進捗状況を示していく必要があるので、その方法について引き続き検討を進めたいと思う。

（事務局）

事務局が内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

- ① 2 「計画策定に関する意見」について
- ここでは、計画策定に関する意見として、4点記載している。
 - 「（1）計画にあり方について」として、本市の公共施設が置かれている状況は大変厳しいものであり、そういった背景を庁内外問わず共有する必要があること。そして再編にあたっては、まちづくりの視点を欠かさないようにすることが記載されている。
 - 「（2）計画の推進にあたって」として、計画の推進にあたっては、市民と一体となって取り組むこと、市民の力も借りながら公共施設が有意義な場所になるように検討することが記載されている。
 - 「（3）計画の進捗状況等について」として、進捗状況の評価にあたって、外部の目を入れること、策定後の進捗管理についての的確に行い、取組み状況の情報公開も積極的に行うことが記載されている。
 - 「（4）多様なニーズへの対応について」として、公共施設に対する市民ニーズが多様化していること、そのニーズを的確にとらえた施設のあり方を考えることが記載されている。

【審議】

（委員長）

答申案についてご意見等があればご発言いただきたい。

（委員）

- 2 「（2）計画の推進にあたって」の文末「熟考を重ねていただければ幸いです。」では、お願いとしての意味合いが強く感じられるので、別の表現が出来ないか。

（委員長）

- 「熟考を重ねてください。」という文言に修正する。

（委員）

- 2 「（1）計画のあり方について」の後ろから3行目「貴市が魅力を持ち続けるために」という表現について、後ろ向きな感じがする。もっと前向きな表現に、例えば「新たな魅力を作る」・「魅力をさらに磨く」などの表現に修正した方が良いと思う。

（委員長）

- 委員長預かりとして、表現については検討する。

(委員)

- 2 「(4) 多様なニーズへの対応について」の文末「的確に捉えて進めてください。」よりも「的確に捉え、柔軟に対応してください。」の方が適切だと思う。

(委員長)

- ご提案いただいた文言に修正する。

(委員)

- 文中に「貴市」とあるが、検討委員には市民もいるので、「横須賀市」という表現の方が適切ではないか。

(委員長)

- ご提案いただいた表現に修正する。

(委員)

- 2 「(2) 計画の推進にあたって」の後ろから2行目「市民の力も借りながら」という表現については、その前段で使っている「市民と一体となって取り組むことが重要です」という表現の方が良いと思う。

(委員長)

- 「市民とともに」という表現に修正する。

(委員)

- 2 「(3) 計画の進捗状況等について」において記載されていることは、今後情報公開を行うということまでに留まっているので、情報公開だけではなく、それを踏まえて評価・見直しを行うことを積極的に取り組んでいくということまで書いた方が良いと思う。

(委員長)

- 事務局の認識はいかがか。

(事務局)

- これからが大事であるということと、進捗状況を確認していただくということについて、記載した部分であるが、委員からご指摘いただいた見直しという点も踏まえた方が良く感じた。

(委員)

- ここでは、目標の達成状況に応じて進捗管理していくという意味合いだけではなく、社会状況の変化に伴い、計画自体を見直していかなければならないという計画の性質があると思う。その点を踏まえて、常に情報を共有しながら見直しを図っていくという視点が打ち出せればと思う。例えば、「進捗管理や取組み状況の情報公開を的確に、」の後ろ

に「常に評価・見直しを行いながら計画を推進する」という文言を追加するなど。

(委員長)

- いただいた文言を追加する。

(2) 横須賀市FM戦略プランの副題(サブタイトル)について

<横須賀市FM戦略プランの副題(サブタイトル)について>資料4

(事務局)

事務局が内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

- サブタイトルについて、議題に挙げた経緯だが、12月に開催した市議会のFM戦略プラン審査特別委員会において、FM戦略プランという名称だけでは少しわかりにくいのではないかと、それを解消するためにサブタイトルをつけたらどうかという提案があった。
- これを受けて、資料4の記載イメージのようにサブタイトルの追記を検討し始めたところ。検討にあたっては、これまで計画書の内容検討に深く関わっていただいた、検討委員会の皆様からのご意見をいただき、進めていきたい。
- 検討の視点としては、市議会で提案された趣旨を踏まえると、内容を端的に表すものであることが必要ではないかと考えており、また、「FM戦略プラン」という表現が、いわゆる役所的な固いイメージがあるのではないかと考えると、前向きなやわらかい表現であることが理想的と考えている。
- 参考としていくつか事務局案を作成したが、これらにこだわるものではないので、副題を付けるかどうかも含めて、検討委員の皆様からのご意見をいただきたい。

【審議】

(委員長)

サブタイトルについてご意見等があればご発言いただきたい。

(委員)

- FM戦略プランの「FM」は横須賀の未来「F=Future」・「M=Management」という意味合いを含め、プランが策定できればと思っていたので、「未来」という文言をいれてもらいたいと思っている。そこで考えたのが「横須賀の未来に向けた施設再編」というようなイメージが良いと思う。

(委員)

- 副題を付けるのは賛成。標題だけでは伝わりづらいと思う。「公共施設」という文言では国や県の施設も含まれると思うので、「市の施設」という文言を使用してはいかがか。それから、「みんなで考えよう」という文言はとても良いと思う。

(委員)

- 市民が使用するというイメージで考えると、市民が使いやすくするためのプランというイメージの副題が分かりやすいのではないかと考えた。

(委員)

- 「未来」・「将来」・「これから」という文言と「市民」という文言は入れたと思う。例えば、「市民とともに考えるこれからの公共施設」など。

(委員長)

- 「みんなで考えよう私たちの公共施設」とすることで、自分事になるのが良いと思う。

(委員)

- 副題を付けるのは良いと思う。このFM戦略プランがなぜ必要かという点、市民の為に持続的に公共施設を上手に活用していこうという趣旨があることから、案2の「みんなで考えよう公共施設の未来」に「私たち」という文言を追加して、「みんなで考えよう私たちの公共施設の未来」とするのはいかがか。

(委員長)

- いただいた意見を集約し、「みんなで考えよう私たちの公共施設の未来」という副題でいかがか。

(各委員)

- 異議なし。

3 その他

(1) FM戦略プラン策定スケジュール（案）について

(委員長)

資料について事務局からの説明を求める。

(事務局)

事務局が内容を説明。説明の概要は以下のとおり

<FM戦略プラン策定スケジュール（案）について>資料5

- 上段に事務局が取り組むこと、下段に議会にご対応いただくことを、左から順に時系列に記載している。
- 上側の一番左だが、本日の第4回検討委員会の意見を踏まえて、2月1日に検討委員会から、具体的には委員長から市長に答申をいただく。
- その後、庁内の戦略会議で答申を報告し、市議会特別委員会に対しても答申と計画素案について報告を行う。
- 3月27日には、市議会から特別委員会としての最終審査結果報告が出される予定である。
- その後、パブリックコメントにかけるための市としての計画案を戦略会議で承認を得て、広報よこすか等で周知の上、約1か月間、パブリックコメント手続きを実施し、パブリックコメント手続き終了後、市議会に対して6月中旬にパブリックコメント手続きの実施結果と計画最終案について報告を行う。
- 最終的には、6月末頃に計画が決定されるという流れになる。

4 閉会

(事務局)

これで本日の会議を終了する。

以上